

地域緩和ケア連携調整員フォーラム

2024年3月9日（土）

主催 国立がん研究センター がん対策研究所

# 愛媛県における緩和ケア連携調整員 研修修了後の活動

---

四国がんセンター がん看護専門看護師 宮脇聡子

# アウトライン

---

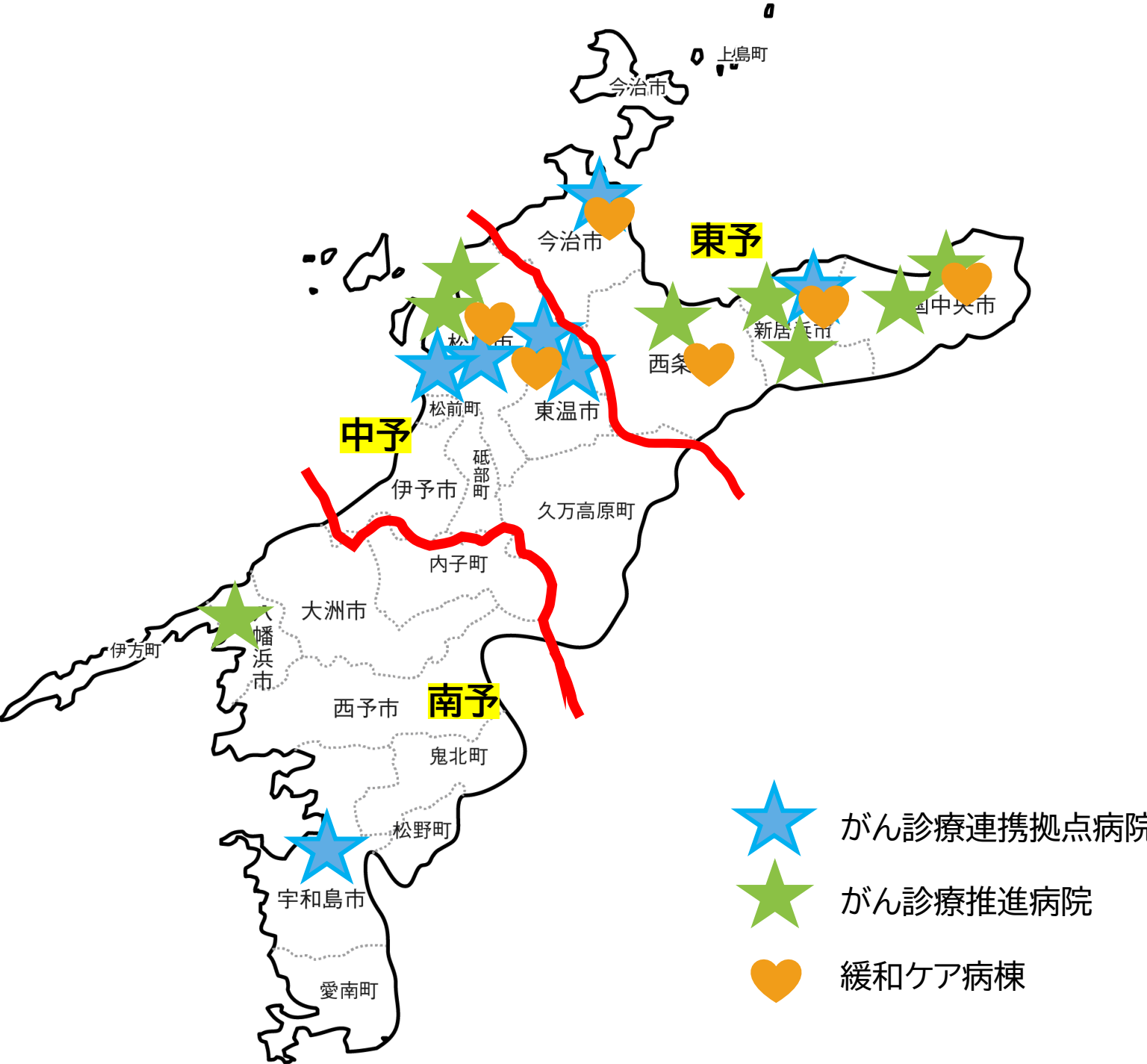
1. 愛媛県におけるがん診療と緩和ケア
2. 在宅緩和ケア推進を行う上での課題と取り組み
  - A) 研修参加前
  - B) 研修参加後から現在まで

# アウトライン

---

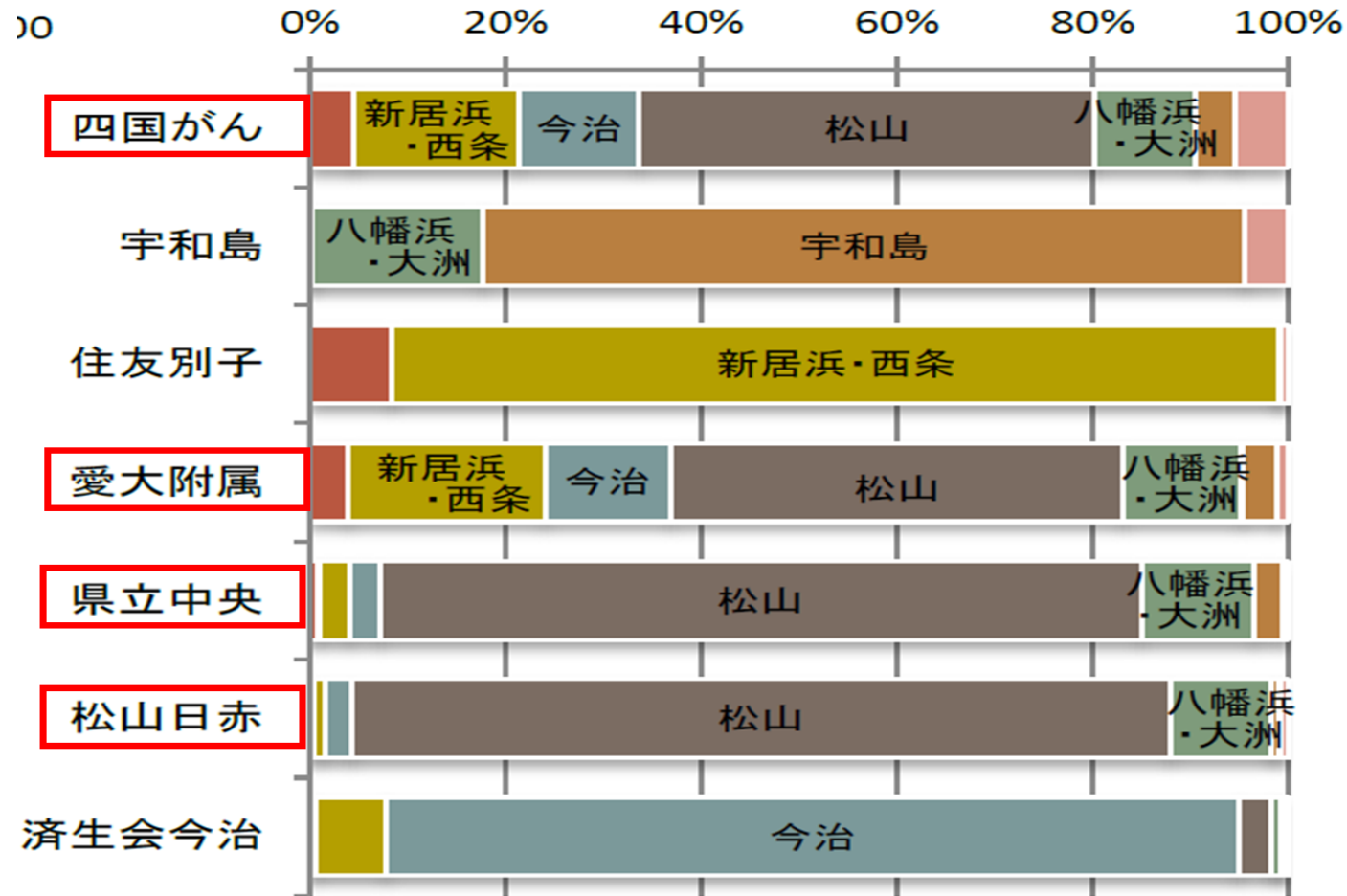
1. 愛媛県におけるがん診療と緩和ケア
2. 在宅緩和ケア推進を行う上での課題と取り組み
  - A) 研修参加前
  - B) 研修参加後から現在まで

# 愛媛県の概要



- 人口:約130万人
  - 中予 63万人
  - 東予 45万人
  - 南予 22万人
- 後期高齢者
  - 中予 15.8%
  - 東予 17.9%
  - 南予 23.4%
- 緩和ケア病棟
  - 中予 2病院(63床)
  - 東予 4病院(74床)

# 愛媛県がん登録者割合(医療圏毎)



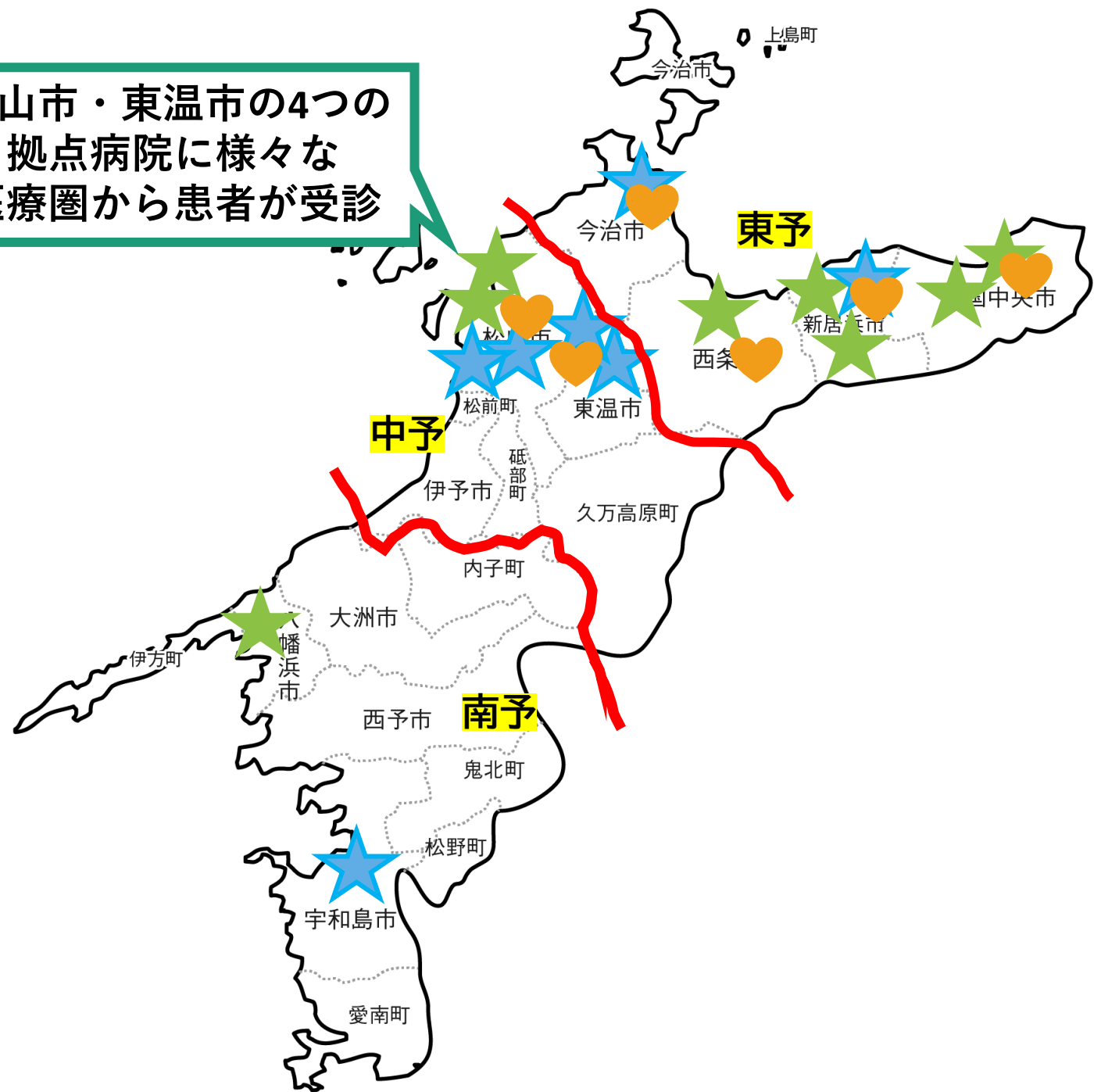
- 南予では緩和ケア病棟、がん診療連携拠点病院等が少ない
- 中予地区の病院には県内の様々な医療圏から患者が受診している

松山市・東温市にあるがん診療連携拠点病院

がん登録でみる愛媛県のがん診療 2015年 院内がん登録より

<https://ecch.jp/conference/subcommittee/registry/activity/ehimeken/pdf/04-8.%20iryouden.pdf>

松山市・東温市の4つの  
拠点病院に様々な  
医療圏から患者が受診



- 南予では緩和ケア病棟、がん診療連携拠点病院等が少ない
- 中予地区の病院には県内の様々な医療圏から患者が受診している



- 緩和ケアのみ、緊急時には、居住地近隣の病院等への転院希望が多い



- 拠点病院は、居住地周辺の医療介護福祉等の提供体制の実態がわからない
- 依頼された医療施設、事業者のコミュニケーションが図りづらいことがある

# 愛媛県のがん診療と緩和ケア提供に関する体制

## 愛媛県がん診療 連携協議会

- PDCA部会
- がん地域連携専門部会
- 緩和ケア専門部会
- がん相談支援部会
- がん登録専門部会
- がんの集学的治療専門部会
- がん看護専門部会

\*主としてがん診療連携拠点病院、  
がん診療連携推進病院、県が参加。  
部会によっては、それ以外の病院  
も参加

## 愛媛県在宅緩和ケア 推進協議会(2011年-)

- がん対策推進委員(医師、看護師)
- ソーシャルワーカー協会
- 介護支援専門員協会
- 薬剤師会
- 患者会
- 保健所所長
- 愛媛県がん診療連携協議会部会  
委員
- 県

# 愛媛県のがん診療と緩和ケア提供に関する体制

## 愛媛県がん診療 連携協議会

- PDCA部会
- がん地域連携専門部会
- 緩和ケア専門部会
- がん相談支援部会
- がん登録専門部会
- がんの集学的治療専門部会
- がん看護専門部会

\*主としてがん診療連携拠点病院、  
がん診療連携推進病院、県が参加。  
部会によっては、それ以外の病院  
も参加

緩和ケア病棟を  
もつ病院も参加

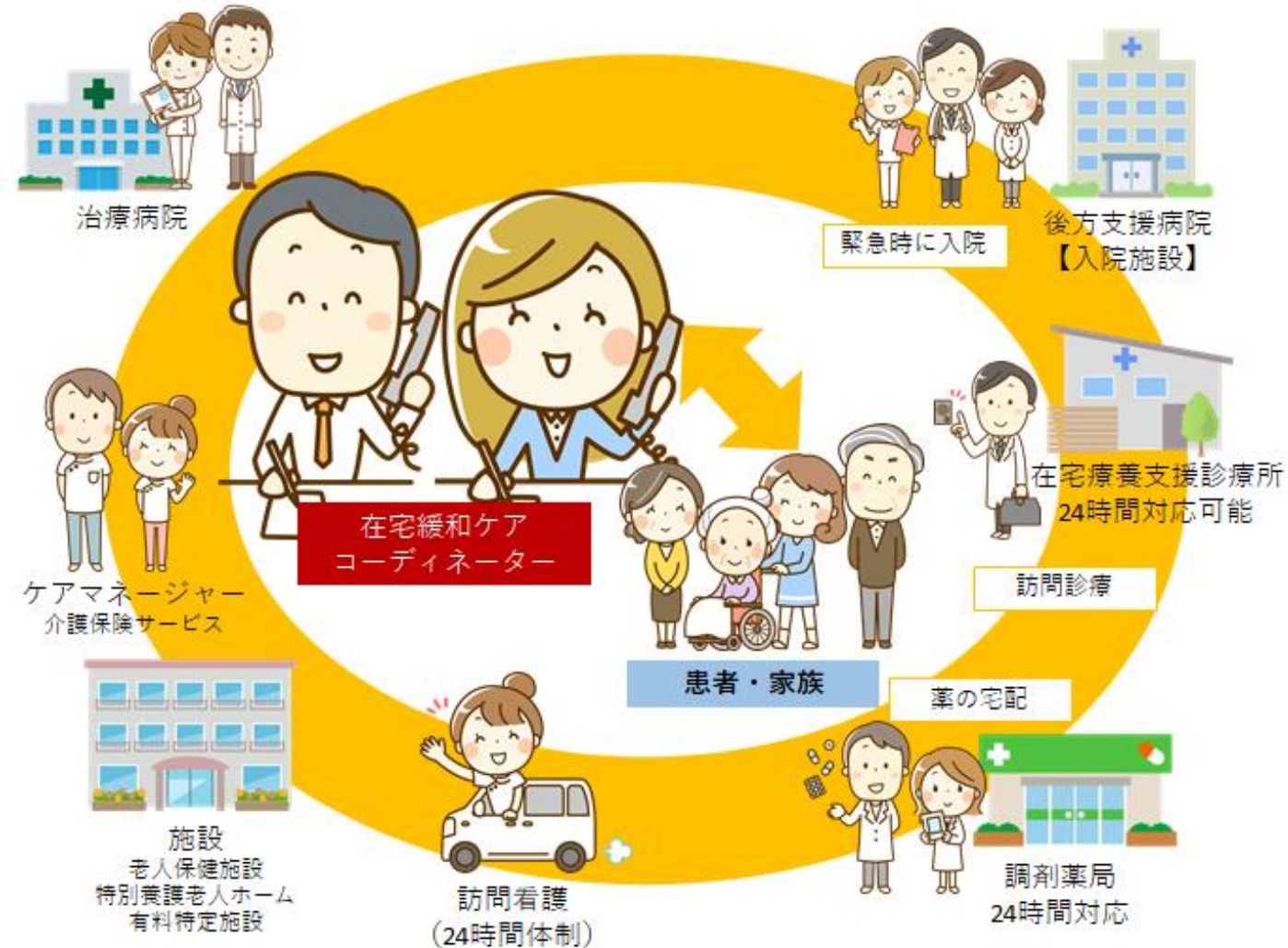
## 愛媛県在宅緩和ケア 推進協議会(2011年-)

- がん対策推進委員(医師、看護師)
- ソーシャルワーカー協会
- 介護支援専門員協会
- 薬剤師会
- 患者会
- 保健所所長
- 愛媛県がん診療連携協議会部会  
委員
- 県



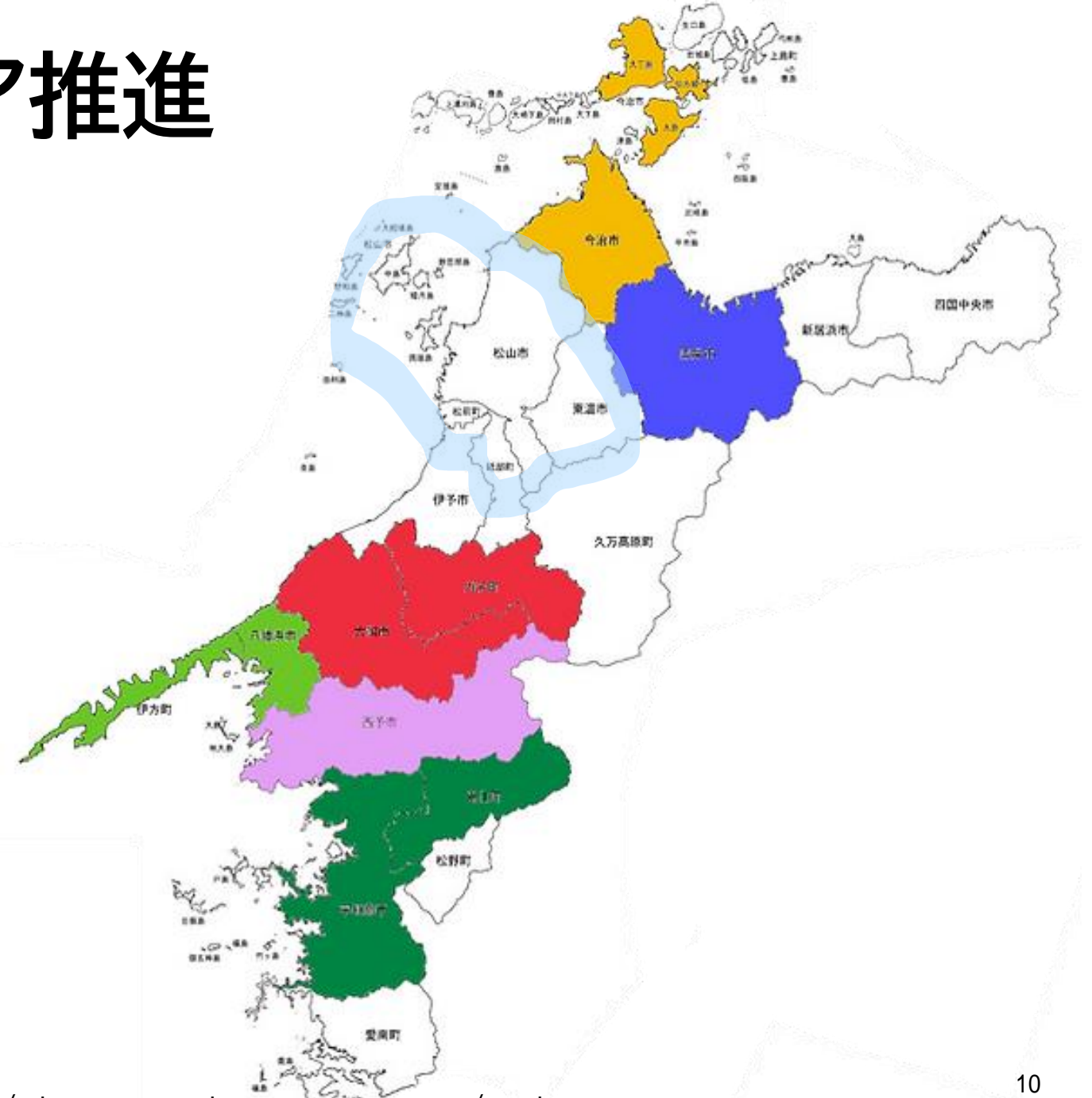
# 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会

郡市医師会単位で在宅緩和ケアの提供体制を構築し、住み慣れた地域で最期まで過ごせる町づくりを目指す



# 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会

- 在宅緩和ケアモデル事業の推進
- 在宅緩和ケアコーディネーター  
およびサポーターの育成



# 研修参加の背景

	2017年 研修参加者	2018年 フォローアップ研修
拠点病院	<ul style="list-style-type: none"><li>四国がんセンター 副院長(緩和ケア医/松山市在宅医療支援センター長)</li><li>松山赤十字病院 がん診療推進室看護師</li><li>四国がんセンター 連携室看護師</li><li>四国がんセンター 緩和ケアセンター看護師</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>四国がんセンター 緩和ケアセンター長</li><li>四国がんセンター連携室看護師</li><li>四国がんセンター緩和ケアセンター看護師</li><li>四国がんセンター看護部看護師</li></ul>
在宅医療	<ul style="list-style-type: none"><li>大洲・喜多地区在宅緩和ケアコーディネーター</li><li>宇和島地区在宅緩和ケアコーディネーター</li><li>松山市在宅医療支援センターコーディネーター</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>愛媛県在宅緩和ケア推進協議会委員</li></ul>

各地域・病院では取り組みを行っているが、何かできることはないか。他県の取り組みを知りたい…

在宅緩和ケアの調整を担当していた  
病院および在宅に所属するスタッフと一緒に研修受講

# アウトライン

---

1. 愛媛県におけるがん診療と緩和ケア
2. 在宅緩和ケア推進を行う上での課題と取り組み
  - A)研修参加前
  - B)研修参加後から現在まで

2017年

# A)研修前(2017年)の 在宅緩和ケアの課題

2022年

1. 病院と地域との顔の見える関係づくりできていない
2. 在宅と病院双方の困りごとがわからない
3. 拠点病院は各地域の在宅のリソースがよくわからない

2023年

各地域では在宅緩和ケア推進協議会の活動により、行政が一体となった地域内のネットワークが構築されつつあった。病院側が地域の状況を理解できていないこと、病院と地域の顔の見える関係づくりができていないことが問題

2017年

# A)研修前(2017年)の 在宅緩和ケアの課題解決への計画

## [目標と役割]

病院と在宅、在宅間の顔の見える関係づくりを行う

1. 拠点病院のスタッフは、2次医療圏または県内の緩和ケアの連携が推進されるような働きかけの強化をしていく
2. 在宅側は、地域内の医療介護福祉の連携強化及び拠点病院等との連携を強化していく

2022年

2023年

# 研修後の取り組みの実際

2017年

1. 既実施の在宅連絡会でワークなど話し合いの場を設ける  
→ 医師会主催の事例検討会や懇話会に連携室、緩和ケア医が参加
2. 松山医療圏においては地区単位の事例検討会の新規開催
3. 事例検討会への介護福祉職の参加を促す

2022年

- 各地域で、可能な範囲で事例検討会に介護職等の参加の声かけ
4. 既存の研修会などに多職種参加を促す  
→ 多職種と一緒に学べるように、他職種向けの用語の説明や、  
がん診療の基礎知識なども研修に盛り込む。多職種ワークの実施

2023年

5. その他  
→ 拠点病院による在宅緩和ケア推進モデル事業の活用推進  
→ 病院、クリニック訪問

2017年

## B)研修後(2022年)の 在宅緩和ケアの現状と課題

- 松山医療圏ではクリニックや 訪問看護ステーションを核としたチーム作りが行われている
- 松山医療圏以外の在宅緩和ケア推進事業に取り組む地域では、医師会から任命されたコーディネーターが医師会と一緒に地域の緩和ケア提供システムの構築を図っている

### 新たな課題

- 免疫チェックポイント阻害薬の適応の拡大に伴い、合併症の対応を在宅で継続して依頼するなど、治療中からの連携がより必要になった
- がんゲノム医療の開始に伴い、緩和ケアのみに移行するタイミングが難しくなった

→連携するタイミング、依頼する内容の複雑さなどが生じている

- COVID-19感染拡大により各地域での事例検討会等は多くが中断

2022年

2023年



# 研修後(2022年)の 在宅緩和ケアの課題への対応

2017年

2022年

2024年

## 愛媛県がん診療 連携協議会

- PDCA部会
- がん地域連携専門部会
- 緩和ケア専門部会
- がん相談支援部会
- がん登録専門部会
- がんの集学的治療専門部会
- がん看護専門部会

\*主としてがん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院、県が参加。部会によっては、それ以外の病院も参加

## 愛媛県在宅緩和ケア 推進協議会

- 医師(緩和ケア)
- 看護職
- ケアマネジャー
- 医療ソーシャルワーカー
- 患者会
- 県

これまでは、緩和ケアに移行したタイミングでの連携が主だった  
→抗がん治療の専門家と在宅緩和ケア担当者間の顔の見える関係づくりも  
必要

# 研修後(2022年)の 在宅緩和ケアの取り組みの状況

2017年

1. 在宅緩和ケア推進協議会の活動によりモデル事業実施地域は2つ増加(6地域)

2. 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会にがん診療連携協議会 集学的治療専門部会のメンバーが参加。がん治療を担う医療者が事例検討等への参加を推進

3. 拠点病院として緩和ケア地域連携カンファレンス、地域連携セミナーなどの開催を行い、情報共有や交流の拡大を予定

しかし、緩和ケアの担い手(基本的緩和ケアも含めて)が、増えないというのも愛媛県の課題・・・

2022年

2024年

# まとめ

- 愛媛県在宅緩和ケア推進協議会の支援を受けて、各地域の行政と郡市医師会が地域内で体制づくりを継続している
- 拠点病院の連携室や緩和ケアセンターなどが各地域の在宅緩和ケアコーディネーターと情報交換をする機会をもつこと、がん診療連携協議会の部会内、事例検討会での情報交換の機会を持ち、相互の体制や困りごと、現状について情報共有する体制づくりをしている(病院-地域、病院間による組織的な情報共有の体制づくり)
- 共有された情報を基に、各地域また拠点病院等が取り組める体制づくりなどにつなげている

# 今後の課題

- 各施設・地域内等に、顔の見える関係づくり、体制の構築や持続可能な体制の検討、地域一体となって対象者を見ていくという認識をもつ管理者・スタッフがいる状況の維持が重要
- 愛媛県ではリソースが増えない、緩和ケアの担い手がいない地域もあるため、人材育成や人材の活用の検討も必要

# 謝辞

本資料は、一緒に研修参加した皆様の協力を得て作成しました

谷水正人氏（愛媛県がん対策推進委員/在宅緩和ケア推進協議会委員）

成木勝広氏（四国がんセンター）

青木清美氏（四国がんセンター）

平岡久美氏（四国がんセンター）

中田裕子氏（松山赤十字病院）

井上幸子氏（市立宇和島病院 元宇和島市在宅緩和ケアコーディネーター）

吉田美由紀氏（愛媛県がん対策推進委員/在宅緩和ケア推進協議会委員）